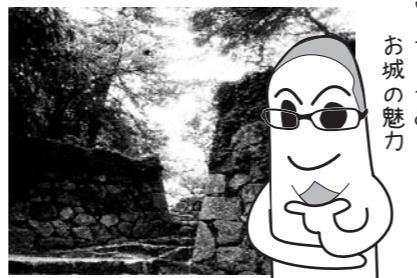


はにわ通信

No.187 平成 22 (2010) 年 10 月号



【お城はふるさとのシンボル～松阪城のすばらしさを学んでみませんか?～】

城下町として栄えた街には、たくさんの歴史遺産や伝統的な文化が伝えられ、その中心となっている「城跡」は、貴重な文化遺産としてだけでなく、街を代表する観光地、その地域のシンボルとして人びとに愛される場所となっています。そして、ふるさとのシンボル「城跡」を未来に伝えるための数多くの取り組みが、これまで全国各地で進められています。私が今年の夏に訪れた熊本城では、平成 10 年度から『熊本城復元整備計画』が進められており、全国各地から訪れたたくさんの見学者の姿がみられました。博物館になっている天守閣には、熊本城の復元整備に寄付された「一口城主」の名札がびっしりと掲示されており、熊本県民の「城」に対する思いを感じることができました。

わたしたちの街にも松阪城跡があり、市民の憩いの場・観光地として、たくさんの人びとに愛される場所となっています。松阪市ではこの城跡を未来に伝えるための計画をたてているところです。その一環として、松阪城跡のすばらしさをもっと知っていただくため、10月16日(土)午後1時30分からコミュニティー文化センターで『松阪城跡シンポジウム』(入場無料)を開催します。シンポジウムでは、講演『ここがすごい松阪城～全国の城跡からみた松阪城のすばらしさ～』とパネルディスカッションが行なわれます。身近に住んでいるとわからない松阪城跡のすばらしさを知る絶好の機会です。たくさんの皆様のご参加をおまちしています。当日、文化財センターギャラリーでは、第51回松阪市美術展が行なわれています。会場はすぐ近くですので、この機会にぜひ文化財センターへもお立ち寄りください。(担当)



わがふるさとのシンボル 松阪城跡

【月の光に】

つねよりも ^照りまさるかな ^端山のはの ^じもみちをわけて ^{きの つらゆき}いづる月影 紀 貫之

いつもよりひとときわ照りかがやいていることであるよ、はるかにみえる山々の紅葉した峰にのぼる月の光は。秋の月はほかの季節よりも明るくかんじられますが、紅葉した「もみち」に照りはえる月の光は、よりいっそう人のところをひきつけます。(「もみち」は、もともと紅葉するもの全体の名前。カエデ類の紅葉がいちじろしいことからおもにカエデ類をさすようになる。)

月が山からのぼるとき、はるか遠くにある月と地上の山の距離がなくなり、月の大きさや明るさが増したようにかんじられます。そのとき、明るくかがやく月と月光に照り映える紅葉のとりあわせは、より印象的な光景になります。

文化財センターでは10月末から「郷土刀と松阪～もののふの造形～」展を開催します。これは、財団法人日本美術刀剣保存協会三重県支部のご後援により実現の運びとなりました。武士の魂ともいわれ、日本刀は歴史の中で時代をこえて大切に保存されてきました。研ぎ澄まされたかがやきに硬さと粘りをあわせもつその完成された姿は、わが国が誇る文化財のひとつです。今回の展示は郷土ゆかりの刀工たちの作刀を中心に、本居宣長の着用刀、竹川家に伝わる大慶直胤の作刀経緯、具足類など、中・近世におけるもののふの造形について考えたいと思いますのでご期待ください。

* 紀 貫之 平安時代中期の歌人

(所長)



【文化財センター はにわ館・ギャラリー 10月の催し物予定】

【はにわ館】 入館料 100 円 (18 歳以下無料。) 月曜日、祝日の翌日は休館です。

第 1 展示室 ・常設展「宝塚古墳の謎」

第 2 展示室 ・後期特別展「郷土刀と松阪～もののふの造形」 10/24 (日)～12/5 (日)

【ギャラリー】 入場無料

第 1・2・3 ギャラリー・第 51 回 松阪市美術展覧会 第 1 部 (絵画・彫刻・工芸) 10/9 (土)～17 (日)

・第 51 回 松阪市美術展覧会 第 2 部 (写真・書道) 10/30 (土)～11/7 (日)

* いずれも詳細な開館時間はホームページやチラシでご確認ください。

開館時間：9時から17時(入館は16時30分まで)

【発行】松阪市文化財センター 【電話】0598-26-7330 【サイト】<http://www.city.matsusaka.mie.jp/>



バーコード読み取り
(文化財センター情報)